

導入経緯や問題点とその克服など

背景

かつて、小浜に鯖の群れが押し寄せた…が漁獲量が激減
鯖街道の起点である小浜の鯖を復活させたい！

→「鯖、復活」養殖効率化プロジェクトへ

～鯖の安定供給と知識・技術の伝承を目指した産官学連携の取り組み

課題

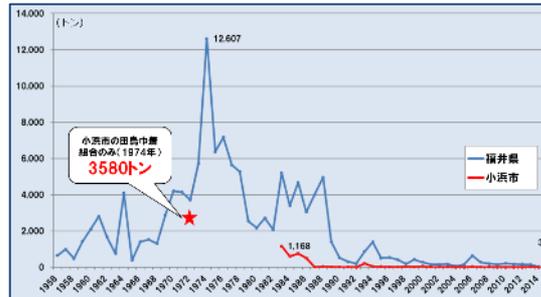
1. 鯖養殖の事業採算性を確保するためには、海面の環境を把握し、効率的な給餌を行うとともに、生残率を高める必要がある。
2. 海面環境と給餌の関係は、漁師の経験と勘に頼られており、明確な養殖技術が確立されていない。

解決

- 水温と給餌量の関係を明確化（水温、酸素濃度、塩分濃度）
- 飼育方法の高度化（給餌計画、給餌記録を分析）



かつての小浜市の様子

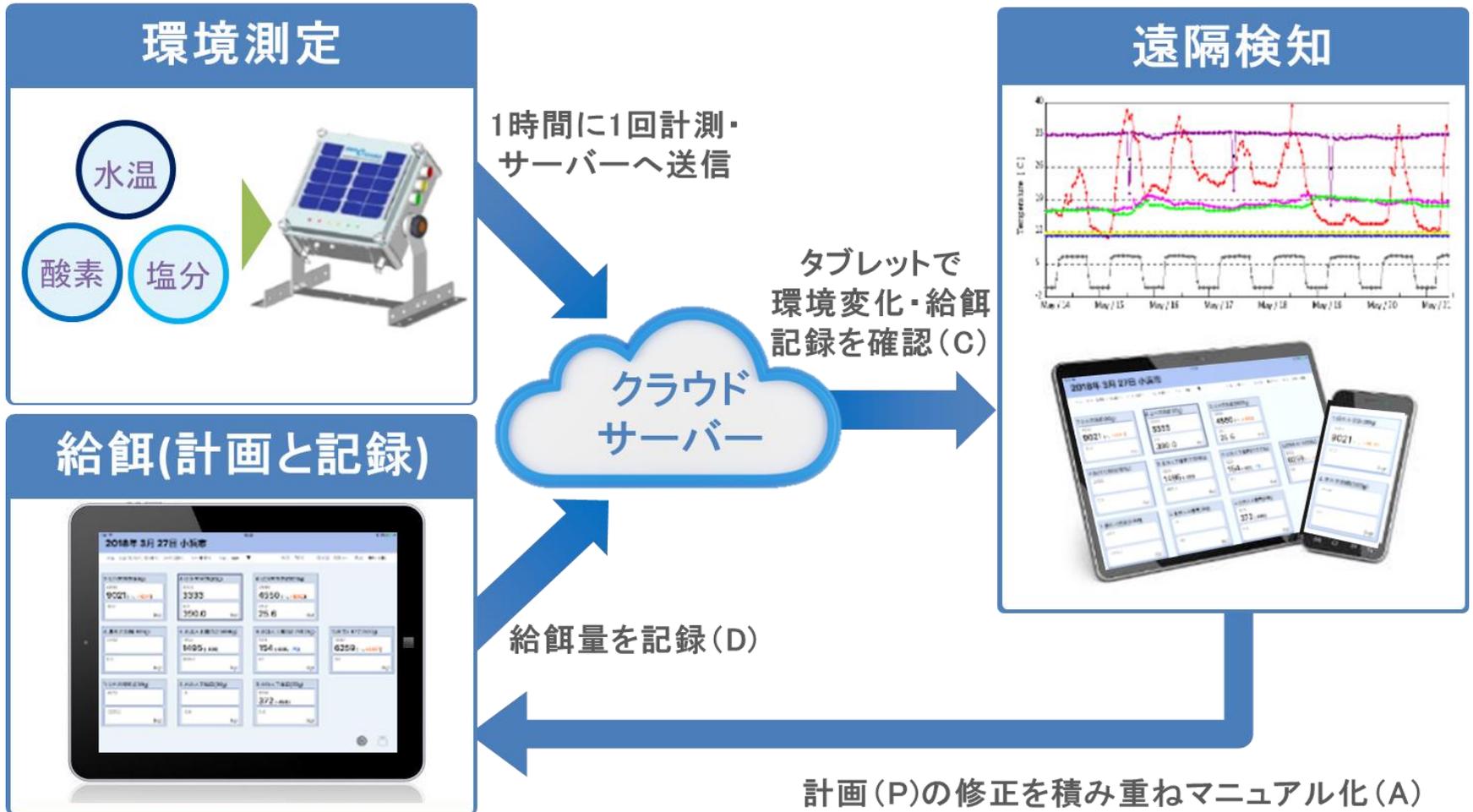


鯖漁獲量の大幅減少



産官学連携体制

応募システムの全体像



ユーザーの評価

ユーザー像	ユーザー数	利用頻度	ユーザーの評価・ユーザーの声
貴社の社員	3 市職員	A (ほぼ毎日)	<ul style="list-style-type: none"> 現場に出向かない限り、報告待ちだった養殖現場の状況がリアルタイムで把握できる。 鯖の尾数、給餌量が、手書き日報からの集計ではなく、データで出力できるため、作業が大幅に省力化した。
委託先・取引先等の社員等	10 漁師、大学教員	A (ほぼ毎日)	<ul style="list-style-type: none"> 現場に行く前に海面環境を把握でき、前もつての作業準備が可能になった。 日報作業が現地でのタブレット入力で完結するので省力化（以前はFAX）。 タブレットを使いこなせるか心配していたが、直感的に操作できるのですっかり慣れた。 月単位で立案している給餌計画を、日々の状況に応じて即時で変更可能に。

**2018年4月より、実運用
(漁師さんによる給餌記録)開始**



IoTセンサー

→従来は手作業で計測していたが船を出さなくても陸から状況を把握可能に。



給餌記録アプリ

→ノウハウがデータ化され、経験と勘に頼っていた育成方法が後進へのマニュアルに。



タブレット

→漁師がタブレットを使いこなし、従来は手書きとFAXだった日報をいけずの上からでも報告。